佐伯通信

2012年11月（平成24）
第13号
発行
佐伯泰英事務所
担当／新潮社

禁・無断転載

コーチンにて

印度の夕日

アラビア海に落ちる夕日を見に行った。場所はインドのケララ州コーチン、インド亜大陸の南部、先端近くだ。

この地はアラビア海とベンガル湾を結ぶ海上交通の要衝ゆえ古より交易で栄えてきた。十六世紀以降はポルトガル、オランダ、イギリスに支配されてきた。この地にはインド航路を発見したヴァスコ・ダ・ガマの墓がある。近年、地の利を利用した国際貿易港の顔も持つ、そのことは訪ねて気付かされた。

私はただインドの夕日、落日を見に行ったに過ぎない。広大な水郷地帯のケララ州で、北へと突き出し、アラビア海の波濤を間近に見るフォート・コーチンにはアラビア海に沈む太陽を見んとインド内陸部からもインド人が見物に訪れる。

夕暮れ六時前後、海が鈍い黄金色に輝き始めると、漁を終えた小舟が波間から忽然現れ、時の移ろう刻限の壮大荘厳な営みを見せてくれる。仕事を忘れるための旅だったが、つい古着屋総兵衛か、座光寺藤之助をこのコーチンに立たせてみたい誘惑に駆られた。存分に夕日を堪能し、帰国した熱海で朝日に迎えられ、いつもの暮らしを再開した。

「佐伯通信」第14号は、1月10日刊行予定の『木槿ノ賦　居眠り磐音江戸双紙』（双葉文庫）に入ります。

佐伯泰英／近刊のお知らせ

2013年3月11日 発売予定	2013年2月7日 発売予定	2013年1月10日 発売予定	2012年12月20日 発売予定	2012年12月15日 発売予定
			《ハルキ文庫》『異風者（いひゅもん）』【新装版】	
			《双葉文庫》41『散華ノ刻』	居眠り磐音　江戸双紙
		42『木槿（むくげ）ノ賦』（「佐伯通信」第14号が入ります。（初版、初回出荷限定）		
	《幻冬舎時代小説文庫》『状箱騒動』	酔いどれ小籐次留書 19		
《光文社文庫》『無宿』	吉原裏同心 18			

佐伯泰英事務所の公式ホームページができました。
http://www.saeki-bunko.jp　佐伯泰英　ウェブサイト　検索

この「佐伯通信」は、佐伯泰英事務所が下記出版社の協力のもと年六回発行いたします。
㈱新潮社、㈱双葉社、㈱光文社、㈱角川春樹事務所、㈱幻冬舎、㈱講談社

調べてみました。

（一部伏せ字でお送りいたします。）

㈱新潮社　新潮文庫編集部
「古着屋総兵衛シリーズ」担当　**佐々木勉**

大黒屋矢来町支店の小僧、佐吉でございます。第五巻のタイトル『○に十の字』は「鹿児島小原節」でも歌われた、薩摩は島津家の家紋のことです。薩摩といえば雄藩です。怒らせたら怖そうです。

さてさて、総兵衛様と桜子様のドキドキの恋路です。今回で桜子様の出生の秘密が明かされます。御尊父様はなんと大給□□の一族です。○○様と御血縁ですよ。系図をみると、桜子様からその方まで18親等です。イトコが4親等、祖父母のハトコの孫が10親等です。18親等……イメージできません。すみません。

一方、日本橋富沢町の大黒屋ですが、おこものちゅう吉さんの失踪事件です。ちゅう吉さんのねぐらの湯島天神まで、富沢町から歩いてみました。富沢稲荷をスタート地点として、人形町通りに出て、昭和通りに入ってなお北上し、台東四丁目を西に折れて春日通りを少し歩けば左手が湯島天神です。だいたい3.3キロ、45分です。天松さんはこの道を何度も行き来したんですね。胸中を思えば泣けます。ちゅう吉さんはいい兄貴分を持ちましたよ。佐吉は、うら■ましいです。

古着屋総兵衛影始末《決定版》全11巻＝完結 ❶～⑪
新・古着屋総兵衛《新シリーズ》続々刊行 ❶～❺
新潮文庫

出版社からのお知らせ

《幻冬舎時代小説文庫》

ドラマ化決定！

かねてより、愛読者の方から映像化を希望する声が多数寄せられていた「酔いどれ小籐次留書」が、ついにNHKの正月時代劇としてドラマ化されます。主人公・赤目小籐次のその後の生き方を運命づけた『御鑓拝借』事件を、豪華キャストで映像化。来年元日の夜、小籐次の快刀乱麻にご期待ください。